

子どもの未来に夢や希望が 持てる「未来を担う人」づくり

「次世代育成支援行動計画」の本格的な推進年とし、子育て支援や児童虐待防止対策などの施策を、集中的にきめ細かく展開します。

食習慣の形成期にある幼児・児童とその親を対象に、保健・福祉・経済・教育部局が連携して子どもの食に関する正しい知識と健全な食習慣をはぐくみます。また、複雑多様化する子育て相談に的確に対応し、心のケアを十分に行うために、新たに心理専門家をこども相談センター長に招き、スタッフの質的向上と相談体制を強化します。



具体策

- 子どもの食育推進事業を新たに開始
- 子どもに関する関係機関・団体・市民が協働し、子育て子育て支援対策を協議する「い

しかり子ども総合支援会議」の設立

- NPOや育児サークルなどと行政機関とのネットワークをつくり、子育て支援情報を積極的に発信する「いしかり子育てネット会議」を展開

- 野外で自由に遊び、学び、創作することで子どもの夢と生きる力をはぐくむため「町のほらっぱ事業」を開始
- くるみ保育園の水洗化
- 病後児保育の対象拡大

新生石狩発展の基盤づくり

市制10周年を迎え、新生石狩市発展への新たな取り組みとして、地方分権時代にふさわしい自立戦略の模索や、地域特性を生かした安全で快適な市民生活の確保に向けて、ソフト・ハード両面の基盤を整備します。

全国に先駆けて取り組んできた「政策などへの市民参加」を進化させ、地域主権型社会の理念や行政運営の原則など、協働のまちづくりを支える「自治基本条例」の策定を始めます。また、時代の潮流や本市の諸課題を見据えながら、将来の地域経営に向けた市民と行政の共通目

標を打ち立てるため、施策の目的や指標目標を取り入れた地域経営計画となる「第4期総合計画」を策定します。一方、本市経済の発展に欠かせない石狩湾新港は今秋、西ふ頭のマイナス14メートル岸壁が供用開始されるほか、エネルギー基地の拡張が予定されるなど、港としての潜在



的な活力がより明確になっており、新港背後地域ではリサイクル・冷凍食品・自動車部品関連企業などが相次いで進出しています。こうした機運をとらえ、新港地域への一層の機能集積・雇用の確保・市内経済への波及効果が及ぶよう、さらに積極的に企業誘致活動を進めます。

市民の安心・安全を守り、快適な生活の確保に向けた施策を展開します。農水産分野の経営安定対策を強化し、高齢者や障がい者がともにまちづくりに参加するための包括的なサービスの充実を図ります。

問合せ

■企画調整課 011-72-3161 ✉ kikaku@city.ishikari.hokkaido.jp
■企画財政課 011-72-3154 ✉ zaisei@city.ishikari.hokkaido.jp



具体策

- 石狩北部地区消防事務組合本部の本市移転
- 心臓突然死から市民を守るため、市役所本庁舎に「自動体外式除細動器」を配備
- 個別排水処理施設整備事業の対象区域を拡大
- 一般廃棄物行政を機動的・効率的に進めるため、広域処理体制を維持しつつ、北石狩衛生施設組合を解散
- 家庭ごみの発生抑制と減量のため、有料化の導入・収集方法の見直し・家庭用生ごみ処理機への助成

- 農水産業の経営安定を図るための利子補給事業
- 担い手の確保・育成のために、農水産業後継者と就業予定者へ支援助成
- 水稻の「イエス・グリーン」登録に向けて生産者を支援
- 高齢者の心身の健康や生活の安定のため、保健医療の向上

地域自治区の振興

厚田区・浜益区の地域振興のため、社会資本整備事業を引き続き実施しながら、それぞれの個性ある地域づくりに向けた市民の自主的な取り組みを支援します。

厚田区

- 公営住宅の建設
- 漁業集落環境整備事業による道路整備
- 望来地区の公共施設の水洗化工事
- 厚田の歩みをまとめた記念誌の発刊

浜益区

- 斎場の建設に向けた調査・設計
- 浄水場の整備に向けた調査・設計

福祉の増進を支援する中核機関「地域包括支援センター」を設置

- 障がい福祉サービス・相談支援・地域生活支援事業の提供体制の確保に関する「障害福祉計画」を策定
- 高齢者福祉と障がい者福祉の支援体制を強化

●区民の健康増進と交流を図るスポーツフェスティバルへの助成

●各種情報を掲載した区民カレンダー作成への助成



望来浄化センター

おわりに

市では、各種事業の圧縮や凍結、市職員の給与削減などの見直しを行い、優先度の高い事業を選択・組み立てた予算案を策定しました。また、ごみ収集処理の有料化など、これまでの行政システムを大きく見直す提案を行っていますが、これらは地方分権時代の到来に即応する行政運営の一端です。厳しい環境を乗り越える鍵は、「一歩先んじる知恵」と「前に踏み出す行動」です。昨年末の30人31脚大会で全国制覇を成し遂げた若葉小学校6年生チーム、トリノ冬季オリンピック日本代表として活躍した附田・國母両選手、国際暗算競技大会で準優勝の花川小学校6年生、田村君などが、そのことを私たちに示してくれました。いつの時代でも、高い志を持って懸命に努力し、さまざまな試練を克服して夢と希望を実現している多くの人の「チャレンジ魂」から謙虚に学び取り、直ちに次なる改革への挑戦を始めます。改革には痛みが伴いますが、地域の総力をもちつて立ち向かいます。市民の皆さんのご理解とご協力を心からお願いいたします。